

平成23年度事業報告書

学校法人 獨協学園

(目次)

	頁
I 獨協学園の沿革	1
II 平成23年度事業報告	
1 獨協学園の概要	
(1) 設置する学校(学部)及び学生数	3
(2) 役員・評議員数	4
(3) 教職員数	4
2 学園全体及び部門別事業の概要	
(1) 学園全体	5
(2) 学園本部	5
(3) 獨協大学	6
(4) 獨協医科大学	9
(5) 姫路獨協大学	12
(6) 獨協中学高等学校	14
(7) 獨協埼玉中学高等学校	15
3 財務の概要	
(1) 貸借対照表	17
(2) 資金収支計算書	17
(3) 消費収支計算書	18
(4) 主な財務比率	18
(5) 有価証券の状況	19
(6) 借入金の状況	19

I. 獨協学園の沿革

獨協学園は、明治のはじめドイツ文化を中心とする西欧文化の粋を摂取して、わが国文教の興隆をはかる目的で設立された獨逸学協会(明治14年・西暦1881年)に、その端を発しています。当時の文明開化の先端を拓こうとしたこの協会が、人材を養成するために設けた学校が獨逸学協会学校でした。

- 明治14年 (1881) 西周、桂太郎、加藤弘之ら獨逸学協会学校の設立準備開始
- 明治16年 (1883) 獨逸学協会学校設立 初代校長に西周(後の学士院会長)就任
- 明治20年 (1887) 第2代校長に桂太郎(後の内閣総理大臣)就任
- 明治23年 (1890) 第3代校長に加藤弘之(後の東京帝国大学総長)就任
- 昭和22年 (1947) 「獨逸学協会」の名称を『財団法人獨協学園』に変更
校名を「獨協中学校」に改称
- 昭和23年 (1948) 新制の「獨協中学・高等学校」発足
- 昭和26年 (1951) 『学校法人獨協学園』として認可
- 昭和27年 (1952) 第13代校長に天野貞祐(元文部大臣)就任
- 昭和39年 (1964) 獨協大学を埼玉県草加市に開学(外国語学部ドイツ語学科、
英語学科、経済学部経済学科)
初代学長に天野貞祐就任
- 昭和41年 (1966) 獨協大学経済学部経営学科新設
- 昭和42年 (1967) 獨協大学外国語学部フランス語学科新設
獨協大学法学部法律学科新設
獨協学園理事長に関湊就任
- 昭和48年 (1973) 獨協医科大学を栃木県壬生町に開学
- 昭和49年 (1974) 獨協医科大学附属高等看護学院(現「看護専門学校」)開学
獨協医科大学病院開院
- 昭和52年 (1977) 獨協大学大学院法学研究科新設
- 昭和54年 (1981) 獨協医科大学大学院医学研究科新設
- 昭和55年 (1980) 獨協埼玉高等学校を埼玉県越谷市に開校
- 昭和58年 (1983) 獨協学園創立100周年(記念式典挙行)
- 昭和59年 (1984) 獨協医科大学越谷病院開院
- 昭和61年 (1986) 獨協大学大学院外国語研究科新設
- 昭和62年 (1987) 姫路獨協大学を兵庫県姫路市に開学(外国語学部ドイツ語学科、
英語学科、中国語学科、日本語学科、法学部法律学科)
法人事務所所在地を「埼玉県草加市学園町1番1号」に変更
- 平成元年 (1989) 獨協大学大学院法学研究科博士課程新設
姫路獨協大学経済情報学部新設
- 平成2年 (1990) 獨協大学大学院経済研究科(経済・経営情報専攻修士課程)新設
獨協大学大学院外国語研究科(フランス語専攻修士課程、英語学
専攻博士課程、ドイツ語学専攻博士課程)新設
- 平成3年 (1991) 姫路獨協大学大学院言語教育研究科修士課程および法学研究科
修士課程新設
- 平成5年 (1993) 獨協大学大学院経済学研究科博士課程新設
姫路獨協大学大学院経済情報研究科修士課程新設
- 平成6年 (1994) 獨協大学大学院外国語学科研究科フランス語専攻博士課程新設
- 平成11年 (1999) 獨協大学外国語学部言語文化学科、法学部国際関係法学科新設
- 平成12年 (2000) 姫路獨協大学経済情報学部経営情報学科新設

- 平成13年（2001）獨協埼玉中学校を埼玉県越谷市に開校
- 平成16年（2004）獨協大学法科大学院新設
姫路獨協大学法科大学院新設
- 平成17年（2005）獨協大学大学院外国語研究科日本語教育専攻修士課程新設
姫路獨協大学大学外国語学部スペイン語学科・韓国語学科新設
- 平成18年（2006）姫路獨協大学医療保健学部新設
獨協医科大学日光医療センター開院
- 平成19年（2007）獨協大学国際教養学部言語文化学科新設
獨協医科大学看護学部新設
姫路獨協大学薬学部新設
- 平成20年（2008）獨協大学法学部総合政策学科新設
姫路獨協大学外国語学部外国語学科新設
- 平成21年（2009）獨協大学外国語学部交流文化学科新設
- 平成23年（2011）獨協医科大学助産学専攻科新設

II.平成23年度事業報告

1 獨協学園の概要

(1) 設置する学校(学部等)及び学生数

平成23年5月1日基準

学校および学部・学科				平成22年度		平成23年度		
				収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	
獨協大学	大学院	法学研究科	(昭和52年)	29	9	29	5	
		外国語研究科	(昭和61年)	52	47	52	38	
		経済学研究科	(平成 2年)	45	23	45	24	
		法務研究科(専門職大学院)	(平成16年)	140	107	130	61	
	外国語学部	ドイツ語学科	(昭和39年)	500	673	490	638	
		英語学科	(昭和39年)	1,140	1,499	1,070	1,403	
		フランス語学科	(昭和42年)	380	484	380	479	
		言語文化学科	(平成11年)	0	40	0	9	
		交流文科学科	(平成21年)	200	287	300	389	
	国際教養学部	言語文化学科	(平成19年)	610	758	610	767	
	経済学部	経済学科	(昭和39年)	1,380	1,803	1,370	1,720	
		経営学科	(昭和41年)	1,380	1,729	1,370	1,651	
	法学部	法律学科	(昭和42年)	885	1,204	840	1,101	
		国際関係法学科	(平成11年)	335	447	310	403	
総合政策学科		(平成20年)	210	266	280	332		
計				7,286	9,376	7,276	9,020	
獨協医科大学	大学院	医学研究科	(昭和54年)	164	101	164	106	
	医学部	医学科	(昭和48年)	625	654	640	675	
	看護学部	看護学科	(平成19年)	400	433	400	426	
	助産学専攻科		(平成23年)	-	-	10	2	
計				1,189	1,188	1,214	1,209	
獨協医科大学附属看護専門学校				(昭和49年)	300	292	300	299
姫路獨協大学	大学院	言語教育研究科	(平成 3年)	30	31	30	34	
		法学研究科	(平成 3年)	20	21	20	17	
		経済情報研究科	(平成 5年)	20	22	20	18	
		法務研究科(専門職大学院)	(平成16年)	90	17	50	11	
	外国語学部	ドイツ語学科	(昭和62年)	30	14	-	1	
		英語学科	(昭和62年)	150	71	-	9	
		中国語学科	(昭和62年)	30	21	-	2	
		日本語学科	(昭和62年)	30	27	-	3	
		スペイン語学科	(平成17年)	30	12	-	5	
		韓国語学科	(平成17年)	30	14	-	1	
		外国語学科	(平成20年)	450	242	600	288	
	法学部	法律学科	(昭和62年)	720	506	720	446	
	経済情報学部	経済情報学科	(平成元年)	150	148	-	-	
		経営情報学科	(平成12年)	100	63	-	12	
		経済情報学科	(平成20年)	600	485	800	598	
	医療保健学部	理学療法学科	(平成18年)	160	198	160	195	
		作業療法学科	(平成18年)	160	163	160	149	
		言語聴覚療法学科	(平成18年)	80	96	80	96	
		こども保健学科	(平成18年)	260	116	240	95	
臨床工学科		(平成18年)	160	110	160	106		
薬学部	医療薬学科	(平成19年)	480	340	600	386		
計				3,780	2,717	3,640	2,472	
獨協中学高等学校	中学		(昭和23年)	600	626	600	628	
	高校	全日制課程	(昭和23年)	900	574	900	582	
	計				1,500	1,200	1,500	1,210
獨協埼玉 中学高等学校	中学		(平成13年)	480	530	480	564	
	高校	全日制課程	(昭和55年)	960	982	960	987	
	計				1,440	1,512	1,440	1,551
総計				15,495	16,285	15,370	15,761	

(2) 役員・評議員数

平成23年5月1日基準

	23年度
理事	27名
監事	3名
評議員	59名

(3) 教職員数について

平成23年5月1日基準

	専任教員数		専任職員数	
	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度
学園本部	-	-	10	12
獨協大学	217	213	155	154
獨協医科大学	746	771	2,981	2,994
(医科大学)	516	529	152	148
(看護専門学校)	16	16	3	3
(大学病院)	0	0	1,665	1,653
(越谷病院)	185	196	957	958
(日光医療センター)	29	30	204	232
姫路獨協大学	200	177	78	77
獨協中学高等学校	55	56	8	7
獨協埼玉中学高等学校	67	67	10	10
合計	1,285	1,284	3,242	3,254

2 学園全体及び部門別事業の概要

(1) 学園全体の事業概要

獨協学園は、明治のはじめドイツ文化を中心とする西欧文化の粋を摂取して、わが国文教の興隆を図る目的で設立された獨逸学協会(明治14年、1881年)にその端を発しています。その後、獨逸学協会学校が設立(明治16年、1883年)され、獨協中学・高等学校の母体となりました。以降、獨協大学、獨協医科大学、姫路獨協大学及び獨協埼玉中学高等学校を設立いたしました。

なお、獨協医科大学は附属の3病院と看護専門学校を有しています。

学園は「各学校の自主性、独自性を尊重しつつ、一つの法人として整合性をもって経営する」等の経営方針のもと運営されています。そして、学園並びに各校が連携し、中長期計画としての基本計画を平成10年より策定し、2年毎に見直しを実施しております。

近年、少子化等の影響により、私立大学等を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しています。

そして、平成23年3月の東日本大震災後の混乱の中で迎えた平成23年度は、学園各校に在籍する被災学生等への支援等とともに、学園全体の教育や医療を通じた一層の社会貢献が求められた1年でした。

また、基本計画(第6次見直し)の内、姫路獨協大学について、当該計画との乖離が大きいため、基本計画(第6次見直し)の修正として、9月の理事会・評議員会で承認されました。

平成23年度、各学校等においては、次のとおり教育・研究・医療の充実を更に推進いたしました。

獨協大学では、教育研究支援センターの本格稼働により教育支援サービスの強化・充実を図りました。また、学習ポータルサイトの運用を開始し、学生への情報サービスを充実させました。施設・設備関係では学生センターの建設(平成24年9月竣工予定)に着手し、1月にはそれに先立ち学生センター別館が竣工しました。

獨協医科大学では、キャンパス環境整備の一環として、学生に対する良質なアメニティを提供するための改修工事や駐車場の整備拡張を行いました。また、越谷病院では、外来診療科のリニューアル工事を完了しました。

姫路獨協大学では、LL教室を改修し、またパソコン機器及び椅子等を全面的に取り替えました。

獨協中学高等学校では、学力分析を基に教育課程表の整備、シラバスの見直しを行うと同時に、教員の組織改革により、生徒の学力向上に努めました。また、教員室の拡張工事や生徒用PC・サーバーの入れ替えなどを行いました。

獨協埼玉中学高等学校では、教育課程の改定を行い、授業の質向上をはかりました。また、国際交流の推進とともに、生徒の外国語の力を伸ばすために英語多読指導の実施拡充や中高六年間の英語指導プログラムの開発に取り組みました。

学園本部では、学園の中長期計画や学園各校の今後のあり方について検討しました。また、そのための諸規則の整備等を行いました。

(2) 学園本部及び学校別事業の概要

学園本部

学園本部では、姫路獨協大学薬学部に係る履行状況の報告及び獨協医科大学大学院看護学研究科の寄附行為変更認可申請を文部科学省に行いました。また、学園全体の管理運営に関わる諸課題を検討し、諸会議を開催しました。

内部監査室では、内部監査計画に基づき学園内各校への内部監査を行いました。

【学園本部】

(単位:百万円)

23年度事業内容	結果・備考等	23年度予算	実績	差異
1 新学部等の設置関係				
1) 新設学部の履行状況報告	1) 平成19年開設の姫路獨協大学薬学部に係る履行状況を文部科学省へ報告しました。	-	-	-
2) 新設研究科の寄附行為変更認可申請	2) 獨協医科大学大学院看護学研究科の文部科学省への寄附行為変更認可申請を行いました。	-	-	-

2 管理運営関係				
1) 理事会・評議員会、学園運営会議の運営	1) 理事会を8回、評議員会を8回、学園運営会議を8回開催しました。	0.6	0.6	0
2) 諸規則の整備検討	2) 諸規則整備検討委員会及び監事会議を開催し、規則の見直しや整備検討を行いました。	-	-	-
3) 業務担当者会議の開催	3) 財務及び補助金の各担当者会議を開催しました。	0.3	0.3	0
4) 内部監査の充実	4) 内部監査室では、内部監査計画に基づき、学園各校における各種業務の実施状況等について内部監査を行いました。	0.7	0.7	0
5) 獨協学園史調査研究資料センターの運営	5) 研究年報の発行及び学園資料の収集整理、機器類の更新を行いました。	5.0	4.1	0.9
6) 学園応急支援資金の実施	6) 姫路獨協大学学生への支援を行いました。	50.0	44.0	6.0
7) 東日本大震災関連学生支援	7) 学園各校の被災学生等への支援を行いました。	-	131.5	-131.5

獨協大学

平成23年度は、「基本計画・第6次見直し(23～28年度)-新しいキャンパスの創造に向けて-」のスタートの年であり、学生センター建設をはじめとするキャンパス再編の第3ステップを加速させました。また、東日本大震災罹災学生に対する支援を行うとともに、少なからず被害を受けた学内外施設の迅速な復旧に力を注ぎました。なお、23年度に実施した主な諸施策、事業は次のとおりです。

教学関係では、平成23年4月「教育研究支援センター」の本格稼働で、教育・研究支援に関する「ワンストップ・サービス」が誕生し、教育支援サービスの強化・充実を図りました。また、既存の研究機関を改組し、新たに「外国語教育研究所」と「情報学研究所」を設立し、外国語教育と情報教育環境を強化しました。さらに、環境科学と経済・経営諸科学を融合した経済学部新学科(国際環境経済学科)の25年4月開設に向け、前年に引き続き支援を行いました。継続プロジェクトとして、各学部・学科及び全学共通カリキュラム、研究科に活性化予算を配賦し、その有効活用により、学生教育に資する様々な企画や事業を実施しました。文科省GP事業「学士力向上に資するEGAP英語教育の充実」は、3年間の成果を3月のGPシンポジウム『アカデミックスキルとしての英語教育－学士力育成のための共通教育の取り組み－』にて発表しました。また、23年5月より「学習ポータルサイト」の運用が開始され、大学や学生生活等に関する様々な情報を携帯電話や自宅のPC等から取得することが可能となりました。

学生サービス等では、東日本大震災罹災学生に対し、経済的理由で学業を断念することがないよう、学園からの支援を受け、学費減免や見舞金支給の特別措置を講じました。なお、文科省より震災対応として、特別補助金の交付を受けました。奨学金は、震災や経済不況の影響を考慮し、「父母の会」からの支援も受け、前年度より増額して拡充を図りました。文科省GP事業「キャリアカウンセリングの強化と地域の協力を得た就職支援」への補助金交付は平成22年度で終了しましたが、「父母の会」からの支援も受け、職業カウンセリングと就職活動サポートを継続しました。学生の健康管理では、学校医の相談日を増やし、健康管理の充実にも努めました。また、感染症予防対策として、引き続き抗体検査費用の補助を行いました。防災対策として、新たな防災体制構築に着手するとともに、無線機による情報伝達システムの導入、食料備蓄品等の拡充を進めました。

施設・設備関係では、第1棟を解体し、すべての学生が利用できる開放的な施設となる「学生センター」建設に着手しました(平成24年9月竣工予定)。それに先立ち、24年1月に大型シャワールーム・更衣室と、公式戦を開催できる弓道場を備えた「学生センター別館」が竣工しました。また、入試部を1階に拡張し、「ADMISSIONS OFFICE」がオープンし、受験関係者へのサービス向上に努めるとともに、広報強化を図りました。図書館では、自動書庫2基を増設し、これにより当初計画の100万冊を超える蔵書収納が可能となりました。加えて、利用学生からの要望に応え図書館内PCを更新するとともに、PC設置席を増設しました。第3棟跡地は、ランドスケープ計画の一環として緑地庭園化を進め、日本の里山をモチーフにした「芝生広場」と生まれ変わりました。井水を活用した小川と小さな水田が設けられ、小川にはメダカが放流され、ホテルの幼虫も放ちました。今夏、ホテルの光舞うタペを期待したい。中央棟は、経年劣化に伴う改修を行うこととし、23年度は雨樋を新設し、ついで男子トイレ(3階～10階)の配管設備の更新および美装化に着手しました。中央棟、東棟、天野貞祐記念館は、屋根付棟間通路で結ばれ、雨天時に移動する際の利便性が向上しました。また、同窓会の協力要請に応じて「セブンイレブン」を35周年記念館1階にオープンしました。安全衛生面では、受動喫煙を防止するため「喫煙ボックス」を学内4箇所に設置し、完全分煙化を推進しました。東日本大震災により、教室棟や中央棟、敬和館などの一部に被害が生じたことから、緊急工事を行いました。

地域貢献では、平成23年は日独交流150周年にあたり、「レクチャーコンサート」「ドイツ・フェスティバル」をはじめ、学内外で様々なイベントを開催しました。さらに、「天文・宇宙Week」を開催し、小惑星探査機「はやぶさ」の帰還カプセル等の展示や、多数の講演者による講演会を実施し、来場者が18000人を超え好評を博しました。オープンカレッジは、東日本大震災の影響で春期講座の受講生が減少しましたが、秋期講座は前年より約20%の受講者増となりました。地域総合研究所が、特別企画「映画で見る団地50年史」と「今後の災害時帰宅困難者対応を産学官で考える」シンポジウムを、環境共生研究所が「小・中・高におけるESD(持続発展教育)の新たな方向性」のシンポジウムを開催し、多くの研究者や近隣の市民が来場しました。

【獨協大学】

(単位:百万円)

23年度事業内容	結果・備考等	予算	実績	差異
1 教学関係				
1) 「教育研究支援センター」の運営支援	1) 本学の教育研究支援を統合した新組織「教育研究支援センター」の下、新たなTA制度の創設を検討しました。	15.0	0.9	14.1
2) 学習ポータルサイトの構築	2) 学生・教職員向け総合情報サービス「ポータルシステム」I期が平成23年5月に稼動しました。	15.8	14.1	1.7
3) 経済学部新学科増設	3) 平成25年度開設に向けて経済学部新学科(国際環境経済学科)増設準備を進めるとともに、市場調査や分析を行いました。	5.1	5.9	-0.8
4) 学部・学科教育の充実・活性化	4) 各学部・学科が様々な視点、発想により、独自の裁量で執行できる活性化促進費の有効活用により、教育研究の充実を図りました。	22.0	8.8	13.2
5) 全学共通カリキュラムの活性化とEGAP英語教育(GP)支援	5) 全学共通カリキュラムの教育促進に努めました。また「学士力向上に資するEGAP英語教育の充実(平成21年度大学改革推進事業採択プログラム)」の実践により、全カリ英語の一層の充実を図り、3年間の成果をGPシンポジウムにて発表しました。	24.3	20.7	3.6
6) 大学院教育の活性化(各研究科)	6) 魅力ある大学院として、広報強化を図りました。	2.7	1.8	0.9
7) FD、SD活動の推進	7) FD・SDを推し進め、更なる教育・環境改善に努めました。	9.4	3.5	5.9
8) 国際交流活動の推進と提携校の拡大	8) 世界各国の高等教育機関が集う国際教育交流の場(NAFSA総会)に参加し、広報展開するとともに、継続して新規協定校開拓に努め、新たに5校と協定を結びました。	2.9	1.7	1.2
9) 「外国語教育研究所」の開設	9) 研究機能の強化として、旧「外国語教育研究所」を改組し、新たな研究所を開設しました。	12.0	9.9	2.1
10) 「情報学研究所」の開設	10) 研究機能の強化として、旧「情報センター」を改組し、新たな研究所を開設しました。	12.0	6.4	5.6
11) 監査業務並びに自己点検の強化	11) コンプライアンスの順守並びに自己点検評価の強化に努めました。	0.5	0.0	0.5
12) 海外インターンシップの調査・開拓	12) 海外インターンシップにおける事前研修および実施のための調査を行いました。	1.8	0.7	1.1
2 学生サービス・その他				
1) キャリア形成教育、キャリアカウンセリングの強化支援	1) 就職支援推進プログラム(文科省平成21年度)の採択を受け、増員強化したキャリアカウンセラーによる就職支援強化に引き続き取り組みました。	12.5	16.8	-4.3

2) 奨学金の拡充(父母の会)	2) 「父母の会」からの支援により「獨協大学父母の会奨学金」を拡充しました。	18.0	19.8	-1.8
3) 休業期間中の図書館開館時間延長	3) 休業期間の図書館開館時間を延長することにより、カウンターサービス等図書館サービスの拡充を図りました。	5.5	3.8	1.7
4) 抗体検査の実施費用補助	4) 感染症対策として、はしか等の抗体検査の補助を行いました。	1.3	1.0	0.3
5) 携帯サイトのリニューアル	5) 携帯等モバイル版でのスピーディな情報発信を行い、新たな広報展開を図りました。	5.0	3.6	1.4
6) 獨協大学50年史編纂(本学創立50周年記念事業)準備	6) 本学設立50周年(平成26年)に向け、編纂作業部会を中心に「獨協大学50年史」の準備を進めました。	2.5	0.5	2.0
7) 「獨協大学父母の会」との連携強化	7) 「父母の会」との連携を強化し、奨学事業、就職支援等における学生への支援を図りました。	0.5	0.3	0.2
8) 「日独交流150周年」関連企画	8) 日独交流150周年に合わせ、本学とドイツに関わる展示、レクチャーコンサート、ドイツ・フェスティバル等を大学内外で開催しました。	14.7	15.1	-0.4
9) 小惑星探査機「はやぶさ」地球帰還カプセル展示等	9) 獨協大学天文・宇宙WEEKとして「はやぶさ」等展示、研究者による講演等を行い、本学教養教育の一環を広く社会に向けて発信しました。	6.0	13.6	-7.6
10) 学校医の増員	10) 学校医の相談日を増やし、学生・教職員の健康管理に努めました。	8.6	7.0	1.6
3 施設・設備関係				
1) 「学生センター」の建設着工	1) 学友会活動の活性化と学生サービス向上を促し、学生の総合的な人間形成に寄与することを目的として、学生センター建設を着工しました。(平成24年9月竣工予定)	1520.0	1114.5	-41.5
		(総工費32.2億円)		
2) 「学生センター別館」の建設	2) 学生センター建設に伴い、35周年記念館隣に弓道場の移設、学生用更衣室・シャワー室等を設置しました。		447.0	-
		(上記総工費を含む)		
3) 第1棟の解体	3) 学生センター建設に伴い、22年度より着手している第1棟を解体しました。	50.0	50.0	0.0
		(総費用70.0)		
4) 第3棟跡地庭園緑化等	4) キャンパス・ランドスケープ計画の一環として、第3棟跡地に緑化庭園(芝生広場)や、天野貞祐記念館から東棟までの屋根付き通路設置等キャンパス整備を推進しました。	224.0	348.7	-124.7
5) 「伝右川の水辺再生事業」の推進	5) 埼玉県水辺再生100プランに採択された「伝右川の水辺再生事業」は、平成24年の事業となりました。	150.0	0.0	150.0
6) 中央棟の施設拡充・設備更新(入試部学生ラウンジ拡張化他)	6) 年次計画により施設拡充・設備更新工事を行いました。新たに「Admissions Office」を設け、入試広報の強化を図りました。	200.0	188.0	12.0
7) 図書館自動書庫の増設(2基)	7) 蔵書収納能力アップを図るため、図書館自動書庫2基を増設しました。これにより収容能力は100万冊以上となりました。	254.9	241.5	13.4

8) DAINETⅢの全学的整備	8) DAINETⅢの整備に合わせた天野貞祐記念館ネットワークとのシステム統合を行いました。	65.8	44.5	21.3
9) 図書館内PCの更新と設置席の増設	9) 学生からの要望に応えるため、図書館内PCの更新とPC設置席を増設しました。	17.1	17.5	-0.4
4 地域貢献関係等				
1) オープンカレッジの拡充	1) 広報強化により本学の公開講座を広くアピールするとともに、受講者の様々なニーズに応えるべく、開設講座の充実を図りました。	5.8	5.6	0.2
2) 地域総合、環境共生研究所シンポジウム	2) 地域総合、環境共生研究所主催のシンポジウムを開催し、地域社会に向けた情報発信を積極的に展開しました。	4.0	2.3	1.7
3) 埼玉県、草加市、自治体、UR等との連携強化	3) 草加市文化交流事業をはじめ、関連機関と積極的に関わり、交流事業を展開しました。	1.0	1.3	-0.3
4) 地域市民との交流	4) 近隣住民との定期的な交流の場を設け、意見交換等実施しました。	0.4	0.2	0.2
5) 夏休み中の高校生への大学施設(図書館)開放	5) 夏休みに加え、新たに春休み中にも高校生に図書館を開放しました。	0.1	0.0	0.1

獨協医科大学

大学キャンパスの環境整備の一環として、学生に対する良質なアメニティの提供をより推進するため、解剖学実習室の改修工事、教室棟・実習棟トイレの改修工事を行いました。また、昨年度に続き、外来駐車場及び学生・教職員駐車場の整備拡張を行いました。

越谷病院においては、新規診療科の開設及び既存設備の劣化に伴う、昨年度より継続中の外来診療科リニューアル工事を完了することが出来ました。

【獨協医科大学】

(単位:百万円)

23年度事業内容	結果・備考等	23年度予算	実績	差異
《医科大学》				
1 教学関係				
①医学部				
1) 全国共用試験	1) CBT:コンピューターによる医学知識試験の実施 OSCE:「医療面接」「頭頸部」「胸部」等6つのステーションでの模擬患者を相手とする実技試験の実施 (H17年より実施)	4.6 1.0	4.4 1.0	0.2 0.0
2) 早期医学・地域医療体験	2) 第1, 2学年対象「コミュニティーヘルスインターンシップ I・II」、選択科目「地域包括医療実習」の開設。本学附属病院をはじめ学外の福祉施設等での体験学習の実施	2.2	2.2	0.0
3) 学生の海外実習	3) 学内試験選抜の学生20名(5学年)の海外大学病院における約2週間の見学実習の実施 [実習先:カリフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)、シティー・オブ・ホープ(アメリカ)、ミュンスター大学(ドイツ)](H13年より実施)。他にフィリピン大学にて海外実習を実施	10.0	9.6	0.4

4) 医師国家試験対策合宿	4) 卒業試験・医師国家試験の合格に向けて、約1週間の短期集中合宿を実施 (H12年より実施)	3.0	2.5	0.5
5) 新教育研究システム	5) 「学習管理システム」や「診療シミュレーション教育システム」等の導入について、具体的に取り進める	8.0	7.4	0.6
②看護学部				
1) 領域別臨床看護学実習	1) 小児・母性・成人・老年・精神・地域の各領域における実習の実施	2.0	2.0	0.0
2) ふれあい看護学実習Ⅰ・Ⅱ	2) 看護の役割等の習得や疾病障害を持つ人々の心身の状況と生活等の学習のため学外実習を実施	1.4	0.7	0.7
3) 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ	3) 病院において、患者の心理状態や良好な人間関係の構築等の学習及び入院患者の生活環境の理解や看護援助の必要性・重要性を体験学習	1.0	0.6	0.4
4) 地域看護学実習Ⅱ	4) 企業の健康管理、学校保健、産業保健活動の実際を環境調整・安全管理の視点から指導保健師と共に地域活動を実践	0.6	1.0	-0.4
5) 国家試験対策	5) 国家試験対策コーナーの設置等、国家試験に向けた受験環境を整備・構築 (H22年より実施)	3.5	3.2	0.3
6) 学生の海外研修	6) 海外の医療、看護業務の学習及び国際感覚を習得するため海外にて1週間程度の実習を行う	1.3	1.1	0.2
2 施設・設備関係				
1) 創立40周年記念事業	1) 記念施設建設他	2,000.0	0.0	2,000.0
2) 駐車場整備工事	2) 駐車場の新設及び整備工事	400.0	272.2	127.8
3) 教室棟・実習棟トイレ改修工事	3) 衛生設備・室内改修工事	140.0	114.6	25.4
4) 解剖学実習室改修工事(第1期)	4) ホルマリン対策・映像設備設置	80.0	79.6	0.4
5) 各大学棟用途変更による改修工事	5) 教室・研究室の改修工事	75.0	49.9	25.1
6) 第5職員寮給排水衛生設備更新工事(第2期)	6) 給排水・衛生設備更新工事	70.0	39.3	30.7
7) 教育研究・実習用機器備品	7) 教育研究・実習用機器備品の整備充実	346.8	318.3	28.5
8) 図書	8) 教育研究用図書の整備充実	57.0	56.0	1.0
9) 車輛	9) 各種行事等における学生・教職員の送迎用マイクロバスの購入他	15.3	9.1	6.2
3 管理運営関係				
1) 図書館リフォーム	1) コンピューターソフト及びAVブース、カウンター周りの補修	14.4	13.5	0.9
2) 創立40周年記念事業	2) 校歌作成、記念誌作成他	10.0	0.4	9.6
3) 大学院看護学研究科設置準備	3) 申請業務、学生募集、入試等を実施	7.7	12.1	-4.4
4) 教員業績システム(仮称)の導入	4) 教員の業績をホームページ上で公表する	6.8	2.4	4.4
5) 電子投票システムの導入	5) 電子投票システムの導入	6.0	7.1	-1.1
《大学病院》				
1 医療活動関係				
1) 総合医療情報システム	1) 電子カルテシステム、オーダーリングシステム、PACSシステムの維持管理	457.5	425.1	32.4
2) PETセンター	2) PET(陽電子放射断層撮影装置)によるガンの早期発見、詳細な部位の特定	413.0	405.4	7.6
3) 栃木県ドクターヘリ事業	3) ドクターヘリ運行業務の委託	193.9	191.9	2.0

4) センター化推進事業	4) センター化推進事業に伴う什器備品等の購入	50.0	15.0	35.0
2 施設・設備関係				
1) 新館及びエネルギー棟設備更新工事(第1期)	1) 新館及びエネルギー棟の設備更新工事	300.0	299.6	0.4
2) 化学療法室・救命救急センターICUの整備拡充工事	2) 化学療法室の移設(3北病棟)、救命救急センターICUの整備	250.0	0.0	250.0
3) 外来駐車場整備工事	3) 駐車場ゲート、舗装工事他	56.9	59.8	-2.9
4) RI棟一次空調機更新工事(第1期)	4) 空調機の更新工事	50.0	48.3	1.7
5) 医療設備機器整備	5) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	600.0	600.0	0.0
6) センター化推進事業	6) センター化推進事業に伴う診療機器の購入	100.0	80.0	20.0
7) 臨床研修機器備品	7) 臨床研修用機器、OA機器の導入	50.0	50.0	0.0
8) 高精細モニタ増設等端末更新	8) 高精細モニタ増設等端末の更新	40.0	24.6	15.4
《越谷病院》				
1 医療活動関係				
1) オーダリングシステム	1) 新規オーダリングシステムの構築、オーダPC及び放射線画像管理システム更新	555.6	403.0	152.6
2) 外来リフォーム	2) 待合イス、診療科用機器の購入	33.3	27.0	6.3
3) 透析センター開設	3) 透析関連備品の購入	5.0	4.0	1.0
4) DPC調査のシステム対応	4) DPC調査システム、DPC分析ツール	3.6	3.0	0.6
2 施設・設備関係				
1) 中央監視装置統合・更新	1) 経年劣化による更新工事	250.0	0.0	250.0
2) 外来診療科リニューアル	2) 新規診療科開設及び設備劣化等による更新工事	200.0	529.0	-329.0
3) 8階北一部改修及び美装工事	3) 設備更新及び環境整備	90.0	73.0	17.0
4) エレベーター更新(No.4・No.6)	4) 経年劣化による更新工事	63.0	40.0	23.0
5) オーダリングシステム更新	5) オーダリングシステムのリース機器導入、更新及び電子カルテ導入に伴うリンク費用	486.0	386.0	100.0
6) 医療設備機器整備	6) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備(救急医療設備の整備100.0を含む)	440.0	395.0	45.0
7) 電子カルテの導入	7) 電子カルテシステム導入	356.4	341.0	15.4
《日光医療センター》				
1 医療活動関係				
1) 業務の外注化	1) 施設管理、検体検査、医事業務、給食、情報処理等の外部委託	271.4	259.5	11.9
2) 医療情報システム構築	2) 電子カルテシステム及び各部門システムの維持管理	16.1	15.3	0.8
3) 健診システムカスタマイズ	3) 健診システム効率化のシステム更新	0.7	0.5	0.2
2 施設・設備関係				
1) 電気室改修工事(第2期)	1) 経年劣化した電気室の整備	100.0	99.8	0.2
2) 1号館外壁改修工事(第2期)	2) 経年劣化による1号館外壁、屋根の改修工事	90.0	90.0	0.0
3) 2号館外壁改修工事	3) 経年劣化による2号館外壁塗装工事等	65.0	0.0	65.0
4) ナースコール更新工事	4) 経年劣化による4病棟のナースコール更新	40.0	0.0	40.0
5) 医療整備機器整備	5) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	100.0	68.1	31.9
6) 病院群輪番制病院設備整備	6) 各種医療機器の整備	22.1	0.0	22.1

7) 栄養課厨房整備	7) 経年劣化による厨房機器の整備	5.0	0.0	5.0
《看護専門学校》				
1 教学関係				
1) 体験学習	1) 看護に必要な技術を習得するため、技術演習や小グループによる体験学習を実施	1.5	1.1	0.4
2) 専任教員の研修・研究	2) 看護教育内容、方法の改善や教員の質の向上を図るため、学外の研修会や研究会への参加	1.1	0.8	0.3
3) 基礎看護学実習	3) 看護に必要な基礎知識、技術、態度を看護実践の場を通して段階的に習得を図るための実習を実施	1.0	1.2	-0.2
2 施設・設備関係				
1) 全教室エアコン工事	1) 教室環境の整備	9.5	9.5	0.0
2) 机・椅子の更新	2) 教室環境の整備のための机・椅子購入	3.4	0.0	3.4

姫路獨協大学

- ① LL教室を改修しました。また、パソコン演習室を含むパソコン機器及び椅子等を全面的に取り替えました。
- ② 震災復興支援として、学生のデザインによる「復興支援チャリティーTシャツ」を学生および教職員有志の手で作成し、校内売店において販売しました。収益金は「あしなが募金(震災孤児支援)」に全額寄付することとしました。その他にも学生による募金活動やサッカー部主催のチャリティーサッカーの開催、薬学部教員による薬剤師ボランティア活動などを行いました。

【姫路獨協大学】

(単位:百万円)

23年度事業内容	結果・備考等	23年度予算	実績	差異
1 教学関係				
1) 特待生制度(Ⅱ種)	1) 入学予定者のうち、優秀な資質を有する者に対し、入学年度の年間授業料の全額を免除しました。2年次以降は、前年度の成績により、年間授業料の半額を免除します。	4.0	1.6	2.4
2) 薬学部「地域連携指定高等学校制度」	2) 入学予定者のうち、地域連携指定する播州地域の高等学校からの入学者に対し、入学年度の年間授業料の半額を免除しました。2年次以降は、年間授業料の25%を免除します。	18.0	14.7	3.3
3) 薬学部「地域連携指定高等学校制度 特種」	3) 入学予定者のうち、本学が指定する高等学校からの入学者に対し、入学年度の年間授業料の全額を免除しますが、今年度は実施に至りませんでした。	3.0	0.0	3.0
4) 学習支援センター	4) センター併任教員が基礎学力向上部門、学習相談部門、学生データの収集・分析部門、入学前教育部門において学生指導を実施しました。	3.0	0.4	2.6
5) 薬学部学外実習	5) 5年次生は1～4年次に身につけた専門知識をもとに、病院実務実習・薬局実務実習を行いました。	61.0	51.9	9.1
6) 特別学業支援奨学金	6) 現行の主に母子・父子家庭等、経済的に困窮している家庭を限定として支援している「学業支援奨学金」の対象者以外で、経済的理由により学業継続が困難な学生に対し月額5万円を支給しました。	24.0	24.0	0.0

7) 緊急支援奨学金	7) 主たる家計支持者が死亡、会社の倒産・解雇・病気による就労困難者で、やむを得ず失職・退職した等の理由により家計が急変した学生に対して、半期又は全期の授業料相当額を支給しますが、今年度は実施に至りませんでした。	6.0	0.0	6.0
8) 特待生制度	8) 入学予定者のうち、優秀な資質を有する者に対し、入学年度の年間授業料の全額を免除しました。2年次以降は、前年度の成績により、年間授業料の半額を免除します。	39.0	47.2	-8.2
9) 医療保健学部学外実習	9) 4年次生は1～3年次に学習した知識・技術、態度等を、実際の現場において検証しました。	58.0	51.7	6.3
10) TOEICによる習熟度別少人数制クラスと英語学習の進捗状況の確認	10) TOEICのスコアをもとに英語能力の習熟度別クラスを編成することによって、学生の学習意欲を高めました。また、入学後の英語能力の推移をカリキュラム評価に活用しました。	2.0	0.4	1.6
11) 薬学部早期体験学習	11) 医療施設や製薬企業等の現場の実体験を通じて、“生命の尊厳”や患者の気持ちに配慮する思いやりなど、薬剤師として身につけるべき豊かな人間性を涵養しました。	2.0	0.3	1.7
12) シラバスを活用した効果的な履修登録支援	12) 従来のwebを利用した履修登録システムに、シラバスを掲載することによって、さらに学生の履修登録の効率化と教員による効果的な履修指導を実現しました。	1.0	0.9	0.1
2 地域関係				
1) 駅前サテライト教室	1) 市民を対象とした公開講座を開催するほか、大学院の授業、就職活動の拠点としても活用しました。	10.0	10.0	0.0
2) 公開講座(語学講座、キッズ英会話教室)の開催	2) 従来の「外国語講座」に加え、各学部から提供された講座を数多く設け、地域の方々に学びの場を提供する「獨協講座」と名称変更しました。	5.0	1.2	3.8
3) 姫路市政策研究助成事業への申請	3) 市内四大学のゼミ・研究室等の学生による研究グループを対象に姫路市の政策に示唆を与える研究活動に対して助成を行いました。	1.0	0.5	0.5
3 管理・運営関係				
1) 新聞広告費	1) 新聞連合広告の時期に応じた出稿を行い大学の取り組みを社会に発信しました。	65.0	80.9	-15.9
2) 大学案内	2) 姫路の地にある本学の教育環境(市街地近郊の自然豊かな地の利)の中で学ぶ学生を多数紹介しました。	20.0	21.2	-1.2
3) マスコットキャラクターによる広報戦略	3) マスコットキャラクターによる効果的かつ効率的な広報戦略を行いました。	4.0	4.2	-0.2

4 設備関係				
1) 教育・学習用コンピューターの整備更新事業	1) LL教室を改修、パソコン演習室を含むパソコン機器及び椅子等を全面的に取り替えました。	100.0	70.0	30.0
2) 講義棟用備品	2) 経年劣化による取替及び教育研究用機器備品の購入について、今年度は実施に至りませんでした。	3.0	0.0	3.0
3) 図書	3) 図書館用図書を購入しました。	9.0	5.5	3.5

獨協中学高等学校

- 授業評価の結果を受け、各教科・各学年において内容を分析し、次回授業評価に向けて対策と目標を策定しました。その間、校長による面談を行い、より効果的なものになりました。
また、学力分析を基に教育課程表の整備、シラバスの見直しを行うと同時に、個々の教員が有機的につながるよう組織改革に着手し、生徒の学力向上に努めました。種々の改革に努めた結果、環境教育の実践と相俟って受験生の評価が高まり、中学受験も順調に受験生を集めています。
- 教員室の拡張工事を行い、全教員が教員室に在席できるようにしました。同時に校長室、応接室、面談室も改修しました。また、改修に伴いキャビネット類を購入しました。
耐用年数を越えた生徒用PC・サーバーの入れ替えを行いました。
グラウンド正面入口の万年塀を改修しました。

【獨協中学高等学校】

(単位:百万円)

23年度事業内容	結果・備考等	23年度予算	実績	差異
1 教学関係				
1) 授業評価の実施	1) 非常勤講師を含む全教員の「授業評価」を21年、22年に引き続き実施し、本年度はその結果を踏まえ、授業研究、授業改善に取り組んだ。	1.0	1.9	-0.9
2) 目標管理および自己点検・自己評価制度の導入	2) 22年度に制度導入の方策等をコンサル会社と共に検討してきたが、本年度は全教職員の「自己点検・自己評価」を実施し、管理職面談も行って、個々人の戦力アップを図った。	3.0	3.0	0.0
3) 新高校教育課程表の施行に伴う諸施策の定着化	3) 高校2年次の文系理系のコース制を導入し、2年次から6クラスへの編成替えを行った。また、中学3年生から選抜クラスを1クラス設置した。	0.0	0.0	0.0
4) シラバスの見直し	4) 新教育課程表の施行に伴い、本校の「中・長期ビジョン」実現のための、より充実した新シラバスを策定した。	0.6	0.4	0.2
5) 学力分析	5) 各教科、各学年において定期考査、中学実力試験、高校模擬試験の結果を生徒の生活状況を含めて各関係機関で緻密に分析し、学力向上を図るよう努めた。	0.8	0.2	0.6
6) 中学入試	6) 再編著しい塾関係雑誌への広告と急激に広がるweb広告への掲載を重点的に実施する。また、校長の交代に伴い、学校案内やDVDコンテンツ等のリニューアルを行った。	5.2	3.3	1.9
7) 環境教育	7) 従来様々な取り組みに加え、校舎周辺に植樹を行うこと等で環境教育をより発展させた。	1.3	0.2	1.1
8) チューター制の導入	8) 自習室に大学生のチューターを置き、生徒の学習面のみならず進路についても指導、助言をしてもらった。	1.3	0.8	0.5

2 施設・設備関係				
1) 教員室の改修工事	1) 研究室制を廃止し、全教員(含む、非常勤教員一部)が在席できるよう、教員室を拡張、整備した。同時に、校長室、応接室、面談室も改修した。	30.0	30.6	-0.6
2) 教員室他機器備品購入	2) 教員室改修に伴うキャビネット類を購入した。	9.0	3.4	5.6
3) 生徒用パソコン、サーバー入れ替え	3) 耐用年数オーバーのPC教室の生徒用パソコンとサーバーを更新した。	14.5	11.7	2.8
4) グランド万年塀改修工事	4) 22年度に引き続き、グランド正面入り口の老朽化した万年塀を改修した。	2.0	2.2	-0.2

獨協埼玉中学高等学校

1 主要な方針・施策

平成23年度は、①国際交流の推進、②教育課程表の改定と生徒の学力アップ、③外国語教育の充実、④学校施設の整備、これら4項目を重点項目として取り組みました。

2 主要な事業の進捗状況

① 国際交流の推進

アメリカ・ドミニカン大学語学研修(高校生)およびオーストラリア・カンタベリーカレッジ体験入学(中学生)を実施しました。

② 教育課程表の改定と生徒の学力アップ

平成24年度より学習指導要領が、中学では全面的に、高校では「理数」先行で改定されます。これに則って本校の教育課程を改定し、教育目標を一層推進する教育課程表を策定しました。

また、生徒の学力を向上させるために、PDCAサイクルを通じて授業の向上を図りました。年度当初にシラバスを作成し、各授業の目標、教材、指導方法、進度等を明確にし、授業を行いました。二学期末には、生徒による授業アンケートを実施することで問題点を探り、三学期の授業の向上に役立てました。また、翌年の授業向上にも反映させていきます。

③ 外国語教育の充実

生徒の外国語の力をさらに伸ばすために、現在中学三年生で実施している英語多読指導を他学年にも拡充し、英検やTOEICなど検定試験の受験を促し、そのための指導を行いました。さらに、中高六年間の英語指導プログラムの開発に取り組みました。

④ 学校施設の整備

平成20年度より順次実施している高校校舎のトイレ改修(B棟2階・A棟3階)を行いました。経年劣化等により修理が難しい状態にあった放送設備を更新しました。

また、学校説明会等の会場となる第一体育館への通路を改修しました。

【獨協埼玉中学高等学校】

(単位:百万円)

23年度事業内容	結果・備考等	23年度予算	実績	差異
1 教学関係				
1) 国際交流 異文化の体験を通じ国際人育成を目指す	1) ドイツ Steinbert Gymnasium 校、オーストラリア Penola Catholic College 校、ニュージーランド Levin Intermediate School 校の各姉妹校と交換留学を計画しましたが、諸般の事情により中止となりました。 アメリカ San Rafael Dominican University への語学研修は計画通り実施しました。 また、新たに、オーストラリア Canterbury Collegeへの体験入学を実施しました。	3.0	1.3	1.7

2) 教育課程の改定 学習指導要領の改訂に伴う教育 課程表の策定	2) 平成24年度より学習指導要領が、中学では 全面的に、高校では理数先行で改定されま す。これに伴って、本校の教育課程を改定 し、教育目標を一層推進できる教育課程表 を策定しました。	—	—	—
3) 自己点検評価とFD活動の推進 授業の質的向上を目指す	3) 生徒の学力を向上させるために、PDCA サイクルを通じて授業の向上を図りました。 年度当初にシラバスを作成し、各授業の 目標、教材、指導方法、進度等を明らかに しました。これに基づき授業を行い、 二学期末に、生徒による授業アンケートを 実施することで問題点を探り、三学期の授業 向上に役立てました。翌年度の授業向上に も反映させていきます。	1.5	1.0	0.5
4) 外国語教育の充実 生徒の外国語の力の向上	4) 生徒の外国語の力をさらに伸ばすために、 現在中学三年生で実施している英語多読 指導を他学年にも拡充し、英検やTOEIC など検定試験の受験を促し、そのための 指導の機会を設けました。さらに、中高六年 間の英語指導プログラムの開発に取り組み ました。	—	—	—
5) 環境教育 ビオトープ・壁面緑化の充実	5) オカワカメによる中学棟の壁面緑化を実施 するとともに一層の整備を図りました。	0.5	0.0	0.5
2 管理運営関係 インターネット関係	インターネット関係 計	1.0	2.4	-1.4
1) ホームページの充実 入試活動の推進、情報公開	1) 中学・高校ホームページを充実して、情報を タイムリーに更新し、入試活動を推進しまし た。			
2) スクールWEB監視	2) 生徒のネットいじめ、トラブルの防止及び 個人情報の保護を図りました。			
3 施設設備関係				
1) 高校校舎トイレ改修	1) 高校校舎B棟2階・A棟3階のトイレ改修 工事を実施しました。	13.0	14.9	-1.9
2) 放送設備等の更新	2) 経年劣化等による修理が難しい状態にあっ た放送設備を更新しました。	8.0	8.7	-0.7
3) 体育館照明及び校内ネットワーク 整備更新工事等	3) 体育館の調光装置(フェーダー)の更新は、 翌年度以降の検討事項とし、実施しません でした。校内ネットワークに関しましては、 校内LANの有線化工事を実施しました。	9.0	1.2	7.8
4) 教育用備品等の整備	楽器、プロジェクター、体育教具、図書、 図書館の閲覧用机・椅子等を購入しました。	12.0	11.5	0.5

3 財務の概要

(1) 貸借対照表

(単位:千円)

	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	23年度末
固定資産	122,141,891	124,271,605	125,480,018	128,746,520	131,250,698
流動資産	28,855,150	27,666,061	31,477,121	33,074,300	35,270,983
資産の部合計	150,997,042	151,937,666	156,957,139	161,820,820	166,521,682
固定負債	21,080,558	22,076,784	24,182,802	24,364,864	23,988,884
流動負債	13,147,874	12,867,086	13,181,751	13,866,722	14,574,606
負債の部合計	34,228,432	34,943,869	37,364,553	38,231,586	38,563,491
基本金の部合計	192,558,393	197,398,939	201,634,544	204,870,448	209,699,436
消費収支差額の部合計	△ 75,789,783	△ 80,405,143	△ 82,041,958	△ 81,281,214	△ 81,741,245
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	150,997,042	151,937,666	156,957,139	161,820,820	166,521,682

(2) 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	23年度末
学生生徒等納付金収入	17,836,872	18,250,630	19,017,805	19,384,107	18,979,715
手数料収入	813,010	845,987	884,603	841,532	801,000
寄付金収入	1,149,288	1,202,398	1,168,506	1,493,919	1,354,113
補助金収入	4,730,864	4,335,902	5,139,834	4,880,626	5,266,918
資産運用収入	587,926	599,390	563,675	519,865	628,076
資産売却収入	570,239	1,058,093	631,881	181,545	263,946
事業収入	459,163	521,932	497,265	676,555	677,231
医療収入	51,438,465	53,591,159	55,879,606	60,475,628	62,544,297
雑収入	850,544	634,546	647,112	831,639	654,957
借入金等収入	0	1,200,000	1,300,000	0	0
前受金収入	4,211,305	4,264,133	4,227,767	3,881,029	3,964,073
その他収入	30,792,477	26,762,092	28,328,701	28,217,226	31,737,974
資金収入調整勘定	△ 13,560,841	△ 13,812,105	△ 14,517,612	△ 15,348,911	△ 15,995,763
前年度繰越支払資金	20,956,074	17,794,113	16,088,563	19,274,851	20,074,899
収入の部合計	120,835,387	117,248,270	119,857,705	125,309,612	130,951,436

支出の部	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	23年度末
人件費支出	36,927,677	36,738,571	36,791,290	37,792,776	38,335,082
教育研究経費支出	32,913,549	33,547,564	35,024,042	37,398,555	38,139,904
管理経費支出	2,699,556	3,314,534	2,929,659	3,162,022	3,095,794
借入金等利息支出	60,043	48,245	59,228	72,515	62,263
借入金等返済支出	878,000	712,000	712,000	712,000	662,000
施設関係支出	3,448,792	5,094,201	5,651,792	3,660,961	4,075,057
設備関係支出	2,503,891	1,950,809	2,636,282	2,835,522	2,665,364
資産運用支出	15,341,602	17,929,274	16,520,934	19,540,174	21,646,464
その他の支出	16,328,354	9,404,438	9,198,073	9,510,745	10,975,525
資金支出調整勘定	△ 8,060,192	△ 7,579,928	△ 8,940,446	△ 9,450,557	△ 10,052,761
次年度繰越支払資金	17,794,113	16,088,563	19,274,851	20,074,899	21,346,743
支出の部合計	120,835,387	117,248,270	119,857,705	125,309,612	130,951,436

(3) 消費収支計算書

(単位:千円)

消費収入の部	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	23年度末
学生生徒等納付金	17,836,872	18,250,630	19,017,805	19,384,107	18,979,715
手数料	813,010	845,987	884,603	841,532	801,000
寄付金	1,260,643	1,281,716	1,324,404	1,552,692	1,405,377
補助金	4,730,864	4,335,902	5,139,834	4,880,626	5,266,918
資産運用収入	587,926	599,390	563,675	519,865	628,076
資産売却差額	2,826	4,136	1,911	1,222	1,367
事業収入	459,163	521,932	497,265	676,555	677,231
医療収入	51,438,465	53,591,159	55,879,606	60,475,628	62,544,297
雑収入	848,309	632,550	645,719	831,545	669,573
帰属収入合計	77,978,078	80,063,401	83,954,821	89,163,774	90,973,554
基本金組入額合計(△)	△ 6,921,358	△ 4,840,546	△ 4,235,604	△ 3,235,905	△ 4,828,988
消費収入の部合計	71,056,720	75,222,855	79,719,217	85,927,869	86,144,566

消費支出の部	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	23年度末
人件費	37,331,865	37,228,102	37,339,677	38,377,190	38,708,097
教育研究経費	38,466,900	38,643,293	40,418,318	42,689,519	43,906,207
管理経費	3,050,859	3,646,746	3,321,668	3,618,975	3,559,843
借入金等利息	60,043	48,245	59,228	72,515	62,263
資産処分差額	72,215	173,525	156,753	320,621	153,789
徴収不能引当金繰入額他	54,340	98,304	60,389	88,306	214,397
消費支出の部合計	79,036,222	79,838,215	81,356,032	85,167,126	86,604,597
当年度消費収支超過額	△ 7,979,502	△ 4,615,360	△ 1,636,815	760,744	△ 460,031
前年度繰越消費収支超過額	△ 67,810,281	△ 75,789,783	△ 80,405,143	△ 82,041,958	△ 81,281,214
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越消費収支超過額	△ 75,789,783	△ 80,405,143	△ 82,041,958	△ 81,281,214	△ 81,741,245

(4) 主な財務比率

(単位:%)

比率名	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	23年度末
帰属収支差額比率	-1.4	0.3	3.1	4.5	4.8
消費収支比率	101.4	99.7	102.1	99.1	100.5
学生生徒等納付金比率	22.9	22.8	22.7	21.7	20.9
人件費比率	47.9	46.5	44.5	43.0	42.5
教育研究経費比率	49.3	48.3	48.1	47.9	48.3
管理経費比率	3.9	4.6	4.0	4.1	3.9
流動比率	219.5	215.0	238.8	238.5	242.0
負債比率	29.3	29.9	31.2	30.9	30.1
自己資金構成比率	77.3	77.0	76.2	76.4	76.8
基本金比率	98.9	98.6	97.6	97.6	97.4

(5) 有価証券の状況

区 分	帳簿価格 (円)	時 価 (円)	摘 要
国債	0	0	保有銘柄数: 0
地方債	2,219,168,570	2,323,539,319	保有銘柄数: 30
政府関係機関債	1,996,415,000	2,080,490,000	保有銘柄数: 19
事業債	3,355,634,000	3,379,918,000	保有銘柄数: 35

(6) 借入金の状況

借入先	借入残高 (円)	利率(年)	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	900,000,000	1.90%	平成30年3月15日	土地・建物
日本私立学校振興・共済事業団	1,137,500,000	1.90%	平成31年3月15日	土地・建物
足利銀行	252,000,000	1.50%	平成27年6月10日	土地・建物
足利銀行	100,000,000	1.47%	平成25年4月1日	土地・建物